

前回話題になった第2次振興計画の振り返りを始めとして、アンケート内容や計画書等を理解しやすい形で丁寧にまとめていただき、事務局の皆様、誠にありがとうございました。

計画書のそれぞれの取り組みや指標等について、詳細には読み込めていないのですが、この施策を進めるうえで、大切だと感じた点について一つだけ、お伝えさせていただきます。

とても気になったのが、アンケート調査結果等から見えた市民・教職員と児童生徒の間にある「理想の人物像」に関する認識の違いです。市民や教職員は「自分で考え、主体的に行動できる人」を最も望ましい人物像として挙げていますが、児童生徒の回答ではその点についてはあまり重視されていませんでした。

このズレが生じる背景を考えると、大人は社会で働いたり、困難を乗り越えたりした経験から、「自分で考えて行動する力」が大切だと感じている一方、子どもはまだその経験が少なく、価値観の成長途中であることも考えられます。また、中高生が選択している「尊敬される人」や「信頼される人」ってどうしたらなれるのか？ともう一步深掘していけば、「自分から進んで行動を起こせる人」につながっていくのかもしれない。

ただ、このアンケート結果を見たときに、一番強く感じたのが、普段の大人たちの関わり方に起因しているのではないかとことです。資料1のスライド2に書かれている第二次教育振興計画の課題にあるように、「学校現場では教師主導型授業がまだまだ大半を占めています。」また、普段の生活の中でも、子どもに失敗させまいと指示・管理しすぎる傾向にあります。教員自身が「間違えさせてはいけない」「効率よく教えなければならない」と思っている場合に起こりがちです。

つまり、このアンケート結果のズレは、私たち大人が「どう育てたか（育む姿勢や関わり）がそのまま子どもの姿や行動に反映している」のではないかと私は考えます。簡単に言うと、「主体性が大切」と頭ではわかっているけど、そういう育て方がなされていない。また、その大切さが子どもたちに伝わっていない。と言えるのではないのでしょうか。

こうした認識のズレを解消するためには、「主体的に学ぶことの意味」を子どもたち自身が実感できるような仕掛けが必要です。主体的な学びは授業だけでなく、行事、係活動、日常生活などあらゆる場面で育む意識を、子供に関わる柏市の全ての大人が意識していくことが大切です。その点からも第3次教育振興計画の施策1「主体的な学び手の育成」は、この計画の中でとても重要な役割を持っていると改めて感じましたし、具体的な取組や指標がこのままでいいのか、しっかりと検討していかなければならないと思います。

長くなりましたが、多岐にわたる調査結果をわかりやすく整理して下さったことで、理想像のズレの背景やその解消方法について深く考えることができました。この審議会のように、多様な立場の人たちがよく話し合い、協力し合うことが、柏市で主体的に学び、成長する子どもを育てるためのカギであると、いただいた資料からも感じることができました。引き続き、よろしくお願いします。